

## 古方処方における煎出・服用方法の検討 (第2報)

永井由香、金 成俊、山田陽城

(東京都 北里研究所東洋医学総合研究所 薬剤科)

真柳 誠、小曾戸 洋

(同 医史学研究部)

(緒言) 原典に記載されている処方内容の比較についてはすでに報告した<sup>1)</sup>。一方古方処方の原典に記載されている煎出・服用方法は多種多様であり、処方ごとに細かい規定が指示されている。現状では漢方薬を煎じる際に、ほとんどの場合が常煎法で行われており、必ずしも原典に忠実な方法を取り入れているとは限らない。またその有用性も明らかにされていない。そこで原典の記載内容と治療効果の関連性について検討を行う目的で、原典に記載されている煎出・服用方法を分類・整理した。

(方法) 『傷寒論』『金匱要略』については久保ら<sup>2)</sup>の報告があるが今回は調査の底本として現存の最善本と考えられている趙開美本『傷寒論』とその異本、陳世傑本『金匱玉函経』および、鄧珍本『金匱要略』(いずれも燎原書店影印本1988年発行)を用い3書に収載されている処方の煎出および服用方法を検討し、各々について分類・整理を行なった。

(結果) 3書に収載されている煎出および服用方法の内容は多岐にわたっている。①特殊な煎出方法を行うものとして、特定の生薬を先に煎じる場合、再煎する場合など354処方中138首の処方に14種類の方法が認められた。②特殊な服用方法を行うものとして服用回数や服用時の指示、あるいは養生方法など354処方中254首の処方に12種類の方法が認められた。3書間の記載内容については①の煎出方法については大きな違いは見られなかったが、②の服用方法については若干の違いが見られた。

(考察・総括) 3書間に収載される煎出および服用方法を分類・整理した結果、現行の方法と相異している点もあり、原典において特殊な煎出・服用方法を行う処方について、その有用性を実験科学的に明らかにしていく必要性が示唆された。1)永井ら古方処方における調剤・煎出方法の検討第49東洋医学会関東支部会要旨39(1992)2)久保ら漢方方剤の用法指示(1,2)薬局29(5)573(1978)、30(2)375(1979)

## 古方処方における煎出・服用方法の検討（その2）

### （目的）

現在北里東医研で行われている漢方薬の煎じ方・服用方法は常煎法が約90%を占めており、特別な煎じ方・服用方法をするものは表1の通りで、300処方中わずか28処方にすぎません。そしてこれらはいずれも傷寒論・金匱玉函経・金匱要略に収載される処方です。この3書には煎じ方・服用方法に関する記載が処方ごとに細かく定められています。ところで北里東医研で使用している処方集のうち3書が出典のものはのべ125処方、内97処方は常煎法を使用しています。そこで、現在行っている方法と比較検討を行う為に原典に記載される煎じ方及び服用方法を分類・整理しました。

### （方法）

堀川本に拠る趙開美本『傷寒論』及び俞子木本『金匱要略』を基底にした調査は今までに発表がありましたが、今回は現存する最善本と考えられている、趙開美本『傷寒論』とその異本、陳世傑本『金匱玉函経』および鄧珍本『金匱要略』（いずれも燎原書店影印本1988年発行）を使用し、3書に収載される処方の煎出・服用方法について調査を行いました。3書間の処方の重複は表2に示す通りです。また『金匱玉函経』は宋本『傷寒論』と等級に扱われなければならない書であるにもかかわらず、現在全く流布しておらず入手不能な状態でしたが今回比較の対象に加えました。

これらの3書は処方の後に煎じ方・服用方法が記載されています。

例えば茵陳蒿湯は3書に記載されています。図1

（煎じ方）先に茵陳蒿を煎じてから山梔子・大黃を加える。

（服用方法）1日3回

しかしながら3書間によって若干の記載の相違がみられるものもあります。

煎じ方では、柴胡加芒硝湯は傷寒論には芒硝を後で加えて煎じるという記載がありますが、金匱玉函経には記載がありません。図2

服用方法では、桂枝加大黄湯には傷寒論には日に3服の記載がありますが、金匱玉函経には記載がありません。図3

そこで各々の内容について整理・分類を行いました。

### （結果）

3書に収載されている煎出・服用方法は多岐に渡っていました。

特殊な煎出方法を行うものは329処方中138首の処方に14種類の方法が認められました。その詳細は表3の様になります。

特殊な服用方法を行うものは329処方中254首の処方に12種類の方法が認められました。その詳細は表4の様になります。

表3表4は紙面の都合上代表例を挙げさせていただきました。

### （考察）

3書に収載される煎出・服用方法を分類・整理した結果、現行の方法と相違しているものが多く認められ、各々についての有用性を実験科学的に解明していく必要性が示唆されました。また煎じる水の量・生薬の分量・修治についても今後さらに検討すべきと考えられました。

薬味、分量、煎出の記載がある  
処方総数 306首

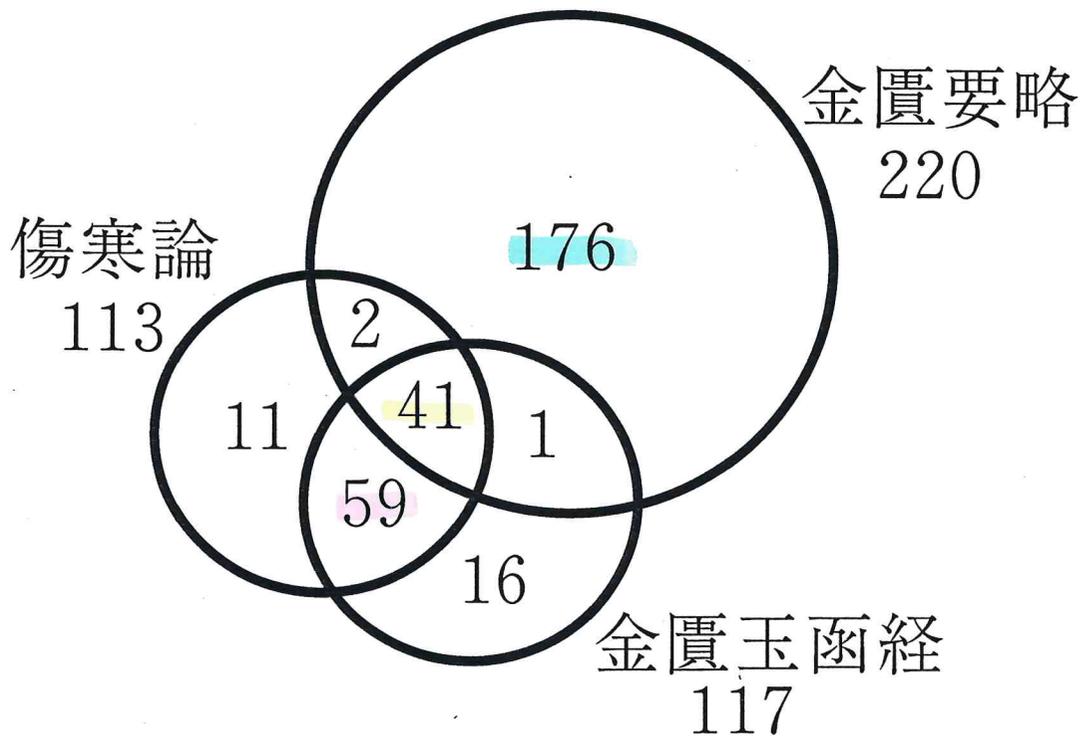


表2

処方集中の特殊な煎出・服用方法をおこなうもの 表1

膠飴を加えるもの	小建中湯 黄耆建中湯 大建中湯		
阿膠を加えるもの	温経湯 芎藭膠艾湯 炙甘草湯 猪苓湯 白頭翁加甘草阿膠湯		
阿膠・卵黄を加えるもの	黄連阿膠湯		
烏頭を蜂蜜で修治するもの	烏頭湯 烏頭桂枝湯		
ひねしょうがを加えるもの	小半夏加茯苓湯 生姜瀉心湯 呉茱萸湯		
赤石脂末を加えるもの	桃花湯	300→150	30分
水と酒で煎じるもの	栝楼薤白白酒湯	水250・酒250→200	40分
外用剤として湿布するもの	苦参湯	500→300	30分
頓服するもの	甘草麻黄湯 大黄牡丹皮湯	200→100 600→300	20分 40～50分
振り出して頓服するもの	三黄瀉心湯 附子瀉心湯	100→ 100→	3分 3分
細末にして煎じる	下瘀血湯 抵当湯	400→200 200→100	20～30分 10分
煎じる水の量が少ないもの	大黄附子湯 大黄甘草湯 桔梗湯 甘草湯 甘草乾姜湯	200→100 200→100 200→100 200→100 200→100	15～20分 15～20分 30分 30分 30分

四

茵陳蒿湯第八十四

茵陳蒿	六兩
梔子	十四枚
大黃	二兩 去皮

右三味以水一斗先煮茵陳減六升內  
煮取三升去滓分溫三服小便當利尿  
角汁狀色正赤一宿腹減黃從小便去

三

桂枝加大黃湯方

桂枝	三兩 去皮
大黃	二兩
芍藥	六兩
生薑	三兩 切
甘草	二兩 炙
大棗	十二枚

右六味以水七升煮取三升去滓溫服一升  
三服。

桂枝加大黃湯方第十三

桂枝	三兩
芍藥	六兩
生薑	三兩
甘草	二兩 炙
大棗	十二枚
大黃	三兩

右六味咬咀以水七升煮取三升去滓溫  
一升

小柴胡湯以解外。後以柴胡加芒消湯主之。五十四。

柴胡	二兩 十銖
黃芩	一兩
人參	一兩
甘草	一兩 炙
生薑	一兩 切
半夏	二十銖 本云五枚洗
大棗	四枚 擘
芒消	二兩

右八味以水四升煮取二升去滓內芒消更煮  
微沸分溫再服不解更作臣億等謹按金匱玉  
函方中無芒消別一  
方云以水七升下芒消二合大黃四兩桑螵蛸  
五枚煮取一升半服五合微下即愈本云柴胡  
再服以解其外餘二升  
加芒消大黃桑螵蛸也。

柴胡加芒硝湯方第三十五

柴胡	二兩 十銖
黃芩	一兩
人參	一兩
甘草	一兩 炙
生薑	一兩
半夏	五枚
大棗	四枚
芒硝	二兩

右七味以水四升煮取二升去滓分二服以  
解為差不解更作服

四二

煎出方法

特定の生薬を先に煎じる方法

麻黄：桂枝麻黄各半湯 桂枝二越婢一湯 小青竜湯 麻黄細辛附子湯 麻黄湯 大青龙湯 麻杏甘石湯 桂姜葶草黄辛附湯 越婢湯 越婢加朮湯 甘草麻黄湯	葛根：葛根黄芩黄连湯 葛根・麻黄：葛根湯 葛根加半夏湯 麻黄・蜀漆：牡蠣湯 蜀漆：桂枝芍薬加蜀漆牡蠣竜骨救逆湯 茯苓：苓桂甘朮湯 茵陳蒿：茵陳蒿湯 小麦：厚朴麻黄湯 酸棗仁：酸棗仁湯 厚朴・枳実：枳实薤白桂枝湯 栝楼実：小陷胸湯 葶茎：葶茎湯	他
---	---	---

特定の生薬を後に煎じる方法

芒硝：桃核承気湯 調胃承気湯 大黃牡丹皮湯 柴胡加芒硝湯	芒硝・大黃：大承気湯 柴胡加大黄芒硝桑螵蛸湯 香鼓：梔子豉湯 梔子甘草豉湯 梔子生姜豉湯 粳米：竹葉石膏湯 桂枝：桂枝人参湯 沢瀉：茯苓沢瀉湯	他
大黃：柴胡加竜骨牡蠣湯 厚朴三物湯 馬墜及一切筋骨損法		

2種類の生薬を別々に煎じるもの

紫参湯	水5升-紫参→2升-甘草→1升半
生姜半夏湯	水3升-半夏→2升-生姜汁→1升半
葶茎大棗瀉肺湯	水3升-大棗→2升・去滓-葶茎子→1升

酒で煎じるもの

炙甘草湯  
芍薬膠艾湯  
当帰四逆加呉茱萸生姜湯  
黄耆芍薬桂枝苦酒湯  
紅藍花酒  
下瘀血湯  
栝楼薤白半夏湯  
栝楼薤白酒湯  
麻黄醇酒湯

酒で服用するもの

赤丸  
紫石寒食散  
青木香丸  
腎気丸  
大黃廩虫丸  
天雄散  
当帰芍薬散  
侯氏黒散  
白朮散  
九痛丸  
長期阿梨勒丸  
薯蕷丸  
当帰散  
土瓜根散

特殊な調製を行うもの

膠飴を溶かす：小建中湯 黄耆建中湯 大建中湯 当帰建中湯（大虚の時）  
阿膠を溶かす：白頭翁加甘草阿膠湯 猪苓湯 黄連阿膠湯 炙甘草湯 芍薬膠艾湯  
百合の煎汁を加える：滑石代赭湯 百合知母湯 百合鷄子湯 百合地黄湯  
烏頭を蜜で修治する：烏頭煎 烏頭湯 烏頭桂枝湯  
諸薬を酒に漬け地黄の蒸し汁を加える：防己地黄湯  
猪胆汁を加える：白通加猪胆汁湯（+人尿） 通脈四逆加猪胆汁湯  
沢瀉汁を加える：沢瀉湯  
蜜と粉を混ぜる：甘草粉蜜湯 猪膚湯  
蜜を合わせる：大半夏湯 甘遂半夏湯

再煎の指示があるもの

小柴胡湯  
大柴胡湯  
柴胡桂枝乾姜湯  
柴胡去半夏加栝楼湯  
半夏瀉心湯  
生姜瀉心湯  
甘草瀉心湯  
旋覆花代赭石湯

振り出して煎じるもの

大黃黄连瀉心湯  
附子瀉心湯  
走馬湯

特殊な物で煎じるもの

馬通汁：柏葉湯 豚脂・毛髮：猪膏髮煎 苦酒・卵白：苦酒湯 泉水：百合知母湯 醋醬水：白朮散 潦水：麻黄連翹赤小豆湯 甘瀉水：苓桂甘朮湯 麻沸湯：附子瀉心湯 大黃瀉心湯	清漿水：枳实梔子湯 漿水：赤豆当帰散 半夏乾姜散 苦酒：黄耆芍薬桂枝苦酒湯 白飲：四逆散 五苓散 井花水：風引湯 東流水：沢瀉湯 童子の小便：馬墜及一切筋骨損方 白飲：四逆散 五苓散
--	--

養生法の記載のあるもの

粥を啜る：桂枝湯 大建中湯 桂枝加黄耆湯 滑石石散饗（大麥粥）  
汗を出す：葛根湯 葛根加半夏湯 麻黄湯 桂枝加厚朴杏子湯  
暖水を飲む：五苓散  
生冷粘滑食臭を禁ず：烏梅丸  
一切の魚肉・大蒜を禁ず、常に冷食が良い：侯氏黒散

散剂

末を煎じる：半夏乾姜散 葶苈附子散 風引湯

特殊な末の調整法 十棗湯：大棗の煎液に末を入れて服用する  
瓜蒂散：香鼓の煎汁に末を入れて頓服  
阿梨勒散：お粥に阿梨勒の散を入れて頓服  
排膿散：諸薬を散にして卵黄と混ぜて服用  
調気飲：黄蠟・阿膠を溶かしてす黄連末を入れる  
王不留行散：王不留行・朔かく細葉・桑東南根を黒焼きにして諸薬の末と合わせる

丸剂

丸を煎じる：大陷胸丸 抵当丸 下瘀血湯  
丸を湯に溶かして服用する：理中丸

特殊な丸の調整法：猪肝黄連丸：梧子大に丸め30丸を米で飲み下す  
皂莢丸：丸を棗膏で湯に溶かす  
別甲煎丸：酒に浸した灰中に別甲を漬けて絞りを諸薬を末にして煎じ丸にする

蜂蜜を使用しない丸：乾姜人参半夏丸（生姜汁）竹皮大丸（大棗肉）青木香丸（糖）

外用剂として使用するもの

蜜煎導 食蜜を熱し飴状にして手で2寸の銃頭大にして冷やして固め座薬として使用

蛇床子散 蛇床子を末にして白米の粉を混ぜ薬の大きさにして綿に包む陰中を温める座薬として使用

礬石丸 焼き明礬に杏仁を入れて煉蜜で薬の核の大きさに丸めて臍中に入れる（月経が止まり下腹が堅く白い帯下のおりるもの）

礬石湯 礬石を漿水（酢）1斗5升で煎じて3~5沸させる煎液に足を漬けて脚気衝心を治す

狼牙湯 狼牙（バラ科の植物）の煎液を綿を藪のように巻き付けた箸浸して1日4回陰部にたらし

雄黄 雄黄（鶏冠石）を末にして包み筒瓦2枚合わせて肛門に向かて焼いて薫する

小兒疳虫蝕齒方 雄黄・葶苈を末にして猪脂に溶かす。枝の先に綿を付虫歯につける

頭風摩散 大附子・塩を散にして入浴後方寸七を患部に振り込む

服用方法 (全329首中)

1日1回服用 (4首)

十棗湯：平旦に服し病除かれない者は明日更に服す  
候氏黒散  
烏頭煎：1日再服すべからず  
排膿散

1日2回服用 (53首)

葛根黄芩黄连湯	甘草乾姜湯	芍薬甘草湯	四逆湯
茯苓四逆湯	柴胡加芒硝湯	附子瀉心湯	大承氣湯
小承氣湯	梔子柏皮湯	桔梗湯	白通湯
白通加猪胆湯	通脈四逆湯	通脈四逆加猪胆湯	乾姜黄芩黄连人
四逆加人参湯	枳実梔子湯	梔子豉湯	梔子乾姜湯
葶茎湯	猪膏髮煎	当帰散	蜘蛛散
腎気丸	黄土湯	栝楼薤白白酒湯	大黄甘草湯
百合知母湯	木防己湯	橘枳姜湯	柏葉湯
大半夏湯	小半夏湯	小半夏加茯苓湯	排膿湯
厚朴大黄湯	大建中湯	防己地黄湯	青木香丸
黄芩人参湯	柴胡去半夏加栝楼湯		

1日3回服用 (114首)

白虎加人参湯	白虎湯	竹葉石膏湯	四逆散
茯苓飲	茯苓沢瀉湯	茯苓四逆湯	当帰四逆湯
小柴胡湯	大柴胡湯	柴胡枝乾姜湯	人参湯
苓桂甘棗湯	苓桂朮甘湯	苓姜朮甘湯	芍薬甘草附
真武湯	呉茱萸湯	小建中湯	当帰建中湯
桂枝加芍薬湯	桂枝加大黄湯	桂枝加竜骨牡蠣湯	桂枝甘草龍
半夏瀉心湯	生姜瀉心湯	甘草瀉心湯	赤石脂禹餘
旋覆花代赭石湯	桂枝附子湯	甘草附子湯	大黄附子湯
麻黄升麻湯	麻黄細辛附子湯	麻黄附子甘草湯	麻黄附子湯
射干麻黄湯	越婢湯	越婢加朮湯	厚朴麻黄湯
炙甘草湯	黄連阿膠湯	芍薬膠艾湯	温経湯
茵陳蒿湯	茵陳五苓散	五苓散	猪苓湯
桃核承氣湯	酸棗仁湯	白頭翁加甘草阿膠湯	生姜甘草湯
白朮附子湯	桃花湯	防己茯苓湯	枳朮湯
桂枝芍薬知母湯	甘麦大棗湯	桂姜棗草黄辛附湯	枳実薤白桂
厚朴七物湯	黄耆桂枝五物湯	栝楼桂枝湯	当帰芍薬散
薏苡附子散	大黄廔虫丸	麻子仁丸	乾姜人参半

昼2回夜1回服用：桂枝人参湯 黄芩湯 黄芩加半夏生姜湯 赤丸

1日4回服用 (6首)

昼3回夜1回：半夏厚朴湯 奔豚湯 生姜半夏湯 白朮散 皂莢丸 竹皮大丸

1日5回服用 (4首)

昼3回夜2回：当帰四逆加呉茱萸生姜湯 黄連湯 理中丸 竹皮大丸

1日6回服用 (1首)

猪膚湯

頓服 (20首)

桂枝麻黄各半湯	桂枝甘草湯	大陷胸丸	瓜蒂散
乾姜附子湯	調胃承氣湯	一物瓜蒂	大黄甘遂湯
紅藍花酒	升麻別甲湯	下瘀血湯	旋覆花湯
葶藶大棗瀉肺湯	訶梨勒散	薏苡附子敗醬散	大黄牡丹皮湯
大黄消石湯	麻黄醇酒湯	三黄瀉心湯	半夏乾姜散

その他

食前服用：烏梅丸 桃核承氣湯 桂枝茯苓丸 防己椒目葶藶大黄丸  
赤丸 赤石脂丸 茵陳五苓散

空腹時服用：薯蕷丸 青木香丸  
空心に服用：別甲煎丸

少し冷やして服用：生姜半夏湯

服用方法の記載のない処方127首